



本会の目的

本会は、「道徳経済一体」の理念に基づき、産業人教育の推進ならびに繁栄と永続の企業の創造につとめ、経済倫理の確立および経済界の安定的発展に寄与し、地球市民の一員として社会に貢献することを目的としています。

日本道経会会員社数/互敬塾塾生

728社

447名

(令和6年9月1日現在)

巻頭言

日本道経会 理事を拝命して

(一社) 日本道経会 理事

福井支部 代表幹事

(株) 寺下機型製作所 代表取締役

寺下 敏弘



この度、令和6年5月より日本道経会理事を拝命いたしました寺下敏弘と申します。

(株) 寺下機型製作所は、鋳造用の「型」を専門に製作している会社です。鋳造とは、熱で溶かした鉄やアルミニウムなどの金属を型に流し込み、冷やして固めることで、型の形状通りの製品を作る技術です。このように鋳造によって作られた製品を「鋳物」と呼び、その鋳物を作るための型を「鋳型」と言います。特に、砂を固めて作る「砂型」が広く使用されていますが、弊社ではその砂型を作るための型を木、樹脂、金属で製作しています。

弊社は昭和38年に、現在会長職にある私の父が創業しました。以来、60年以上にわたり、型づくり一筋に歩んでまいりました。今後も技術力の向上を追求し続ける所存です。

私自身は大学卒業後、自動車や家電など

のプラスチック部品の金型を製作する会社で修業しました。そこは型業界の中でも特に自動化が進んでおり、弊社にない技術を持っていました。修業期間を経て、これまでに習得した技術を活かし、現在に至っております。

道経一体の経営においては、究極の目的を「人づくり」に置いています。弊社の経営理念は「型づくりと人づくりを通して、お客様と社会に貢献します」です。これは、父の代から受け継がれてきた考え方を平成20年に明文化したものです。私たちは「型づくり」と同様に「人づくり」にも力を注ぐことで、弊社の存在価値を示しています。道経一体の経営を目指し、ニューモラルの勉強会や生涯学習セミナーへの参加など、さまざまな取り組みも行っています。

今、大学2年生の長男にバトンを引き継ぐ日はまだ遠い未来ですが、「人づくり」を通して経営基盤を強化し、100年企業を目指すビジョンを描いております。社員一人ひとりの成長を促し、次世代に誇れる会社を築いていく覚悟です。



今年度の日本道経会千葉支部ではテーマを「3世代交流～永続をめざして」と掲げ、会員を勉強委員会、セミナー委員会、交流委員会の3つの委員会に分けて、事業をおこなっております。

私の担当している交流委員会では茹だる様な暑さの中ではありましたが、「日本道経会会員世代、互敬塾世代、麗澤大学学生世代」と3世代を位置づけ、7月20日（土）に千葉県柏市北西部にあるファミリービジネス企業を視察し、交流を深めました。

会員11名、互敬塾生2名、麗澤大学経営学部生16名の参加でした。

まず、会員企業である（株）小林海苔店がある柏市公設市場に集合し、各場内を見学し、家族経営における事業承継事例や衰退事例なども知る事ができました。

市場の会議室では（株）小林海苔店の小林恵次会長と小林忠祐社長にお話をいただきました。

公設市場が平成10年のピーク時の売り上げに比べると

およそ半分になっている中でも事業承継を上手におこない、親子、兄弟を中心に経営をされていました。

公設市場の美味しいお弁当をいただいた後、地域密着でお客様の「困った」を解決する為、地域密着をモットーに経営をされている（有）かわの電器の河野拓也社長にお話をいただきました。

河野社長は大量に仕入れ、価格を抑える事により、お客様へ安価で家電製品を提供できるようにするために千葉県内のパナソニック専門店を集めたグループの代表も務めており、独自のサービス、組織運営で業績を伸ばしていました。

家電製品の販売だけでなく、網戸の張替え、家のリフォーム工事、庭の蜂の巣の除去、カーポートの上の猫のフンの除去、あらゆるお客様の「困った」をすぐに解決している姿はとても勉強になりました。

（株）小林海苔店様、（有）かわの電器様、共に子供の頃から家業に触れている事が家族経営においても家族間での事業継承にも肝心だと感じました。

次に柏市を代表する国の重要文化財「旧吉田家住宅」を見学した後、併設されている公益財団法人吉田記念テニス研修センターの会議室を借り、会員、学生をランダムに分け、グループディスカッション、グループ発表、質疑応答を行い、交流を深め、学生の今の考えなども学べて非常に有意義な時間でした。

講師を含め、ご協力くださいました皆様に感謝いたします。

交流委員会担当 副代表幹事 廣瀬 竜一



大阪支部では8月5日（月）に懇親家族例会と銘打っての8月例会を開始しました。恒例の日頃お世話になっている会員の伴侶やご家族、従業員の皆様も参加しての懇親例会を開催しました。

今回はKPG ナイトリバークルーズを開催しました。中之島から大川（旧淀川）を遡る遊覧船で夜景を見ながらの

食事会です。参加者は33名（内女性14名）でした。お楽しみとしてジャズの演奏と歌も含めて約2時間大いに楽しみました。

当日は中之島にある史跡の中央公会堂の向かいの若松浜公園船着場より、堂島川をさかのぼり大川（旧淀川）に入り大阪城の先までの往復コースです。このコースは江戸時代、大阪の蔵屋敷から京都伏見までの三十石船の行きかったコースの一部です。まだ明るさが残る午後六時半に出発し、気の合った仲間や家族単位で夜景を見ながら料理（イタリアン）と音楽を楽しむ企画です。

このコースの大半は7月25日に開催される日本3大祭りの「天神祭り」の神事「船渡御」と重なり、兩岸に北浜のビル群、桜の通り抜けで有名な造幣局、大阪城、等々水都大阪の中心部です。

しかし皆様の様子を見ておきますと、話が弾みすぎてあまり夜景を楽しむ余裕が無かったのが、少々予定外でした。

下船は八時半でしたので時間に余裕の有る方々は、二次会に繰り出されたご様子でした。大阪支部では年二回懇親例会を企画しており、楽しみにしておられる方々もおられ

るので、今後も続けたいと思っております。毎回色々と企画に工夫されたおり、担当幹事さんには感謝申し上げます。

事務局長 藤岡 康一

長崎互敬塾 移動例会

長崎互敬塾の移動例会として、(株)落水正商店様へ会社訪問をし、落水日朗社長により現地にてお話しをいただきました。

鶏卵生産に対する深い愛情と誇りが感じられる、非常に感銘を受ける経験でした。落水社長は飼育している鶏を社員同等と考えており、一羽一羽に対する配慮が工場全体に行き渡っていると感じさせられました。

日本で飼育されている鶏は、全国1億5000万羽、長崎で150万羽、そのうち30万羽を(株)落水正商店で飼育されているそうです。鶏に対する徹底したケアが行われており、カンピロバクターやサルモネラといった菌検査への対応の徹底や、抗生剤を使用せずに鶏が病気を乗り越えられるようにしているなど真摯な取り組みがうかがえま

した。HACCP対応型センターの設備投資を果敢に進めた姿勢には経営者としての当時の覚悟を感じました。慎重且つ挑戦者であること。学びが多い部分だと感じます。また経営判断に悩んでいる時、日本道経会会員企業の支援を受けながら困難を乗り越えた経験談もお聞きすることができ、窮地での仲間の存在としても道経一体を学ぶ同志がそばにいる大切さを実感します。

「利益を追求することよりも、良質な卵を作ることに全力を注ぐ」という姿勢を強く持たれていることがとても印象的

でした。太陽卵の開発に20年もの歳月を費やし、年間多くの研究費を投じたその情熱と信念には心を打たれました。

(株)落水正商店の訪問を通じて、卵生産に対する深い敬意を感じるとともに、今後も様々なご指導をいただき、また参加の互敬塾メンバーとしても地元の同企業を応援したいと強く感じました。

副支部長 古川 洋平



奈良支部8月度 支部例会

令和6年8月2日(金)17時20分より、橿原神宮養正殿において出席者38名で8月度例会を開催しました。

例会に先立ち誓いの言葉を唱和し、開会挨拶を油谷謙之代表幹事より陳べられました。

今回の例会では、(株)mobility career 代表取締役社長の加藤優氏に、「一隅を照らす」との題で講演をしていただきました。

愛知県で人材派遣業を経営の加藤氏は、まず自身の生い立ちやこれまでの経歴を紹介され、現在の会社地位に就かれるまでを話されました。趣味のマンガがきっかけで奈良に興味を持たれ、中でも飛鳥時代の頃に特に興味をお持ちとの事でした。

「日本でいちばん幸せを感じられる会社を創る」との理念で現在の会社に入られ、人とのご縁に常に感謝しているとお話しされ、「信頼」と「信用」が次のように考えていると話されました。

「信頼」は相手のこれからの行動に期待し、成果を出してくれるだろうと信じられること。

「信用」相手の今までの行動や実績を評価し、成果を再現してくれるだろうと信じてくれること。

例会終了後には懇親会を行い、楽しいひと時を過ごすことができました。会員を含め各方面からのご出席誠にありがとうございました。

宮原電気(株) 宮原 克尚





8月3日(土)、四ツ谷駅前の主婦会館プラザエフにて、道経一体経営セミナー「徳づくりの経営」を開催しました。

今回の講師は、(株)ソフテック相談役の田辺 勉講師と(株)シンコー代表取締役の鈴木規子講師で、当日は猛暑の中、100名を超える方にご参加いただきました。

第一講「道経一体と品性資本の経営」・第三講「人づくりの経営」を担当された田辺講師のお話で印象的だったのは、ソフテック社社長時代のご経験でした。取引先との約束が守れない中、お客様にどのような姿勢でのぞんだのか。また、社内でのどのような議論があったのか。聞いている参加者の皆さんにも熱くこみ上げるものがあったのではないかと思います。また、「三方よし」の理想は、配分する「パイ」を大

きくすることである、というお話。仕事を通じて、自社とお客様が成長するだけではなく、社会・世の中にも価値を広げられているか、自分自身、再度見つめ直す必要があると感じました。この「成長」は「=幸せ」とも言えると感じました。

第二講「顧客づくり・モノづくりと致富の経営」・第四講「歴史づくりの経営」を担当された鈴木講師からは、「商品づくりとは品性づくりである」ことを学びました。お客様に良い商品を提供するために日々改善を積み重ねる、その思いこそが道徳である。自分が納得できるかではなく、お客様に納得いただけるかの視点を大切にしたいと感じました。

お客様に指摘いただいた「品質は良いが、価格が高い」という言葉。実はこれは「価格ほどの品質ではない」というのが本音である。鈴木講師が経験された「値決め」や「付加価値」についての考え方も、自社のサービスを見つめ直す機会になりそうです。

また、今回の道経一体経営セミナーでは、2コマごとの後に15分ずつ、参加者4人ひと組でのディスカッションの時間を設けました。できるだけ他社の方と組めるよう席割りをし、皆さんが活発な意見交換を交わしてアウトプットをすることで、より学びが深まったのではないかと感じています。

セミナー後の懇親会もほぼ全員の方に参加いただき、講師への質疑応答などを行いました。真夏のとても暑い日ではありましたが、外気にも負けない「熱い」道経一体経営セミナーにできたのではないかと、手ごたえを感じる1日になりました。

※当セミナーの動画は、日本道経会ホームページの会員専用サイトにて、8月20日から9月30日の期間ご視聴いただけます。

事業部会長 石田 麻琴

本会報のバックナンバーはホームページでご覧いただけます。

NIHON DOHKEIKAI <http://www.ndk.gr.jp>

一般社団法人

発行：**日本道経会**

〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL. (04) 7173-3172 FAX. (04) 7173-3134
E-mail office@ndk.gr.jp

事務局 だより

今年の夏は例年より暑い日が続きました。地震などの天災もありましたが、日々の生活を通常通りに送れるのは本当に幸せなことだと感じています。何よりも健康に気をつけて、道経一体経営に進んでいただければと思います。

本部事務局